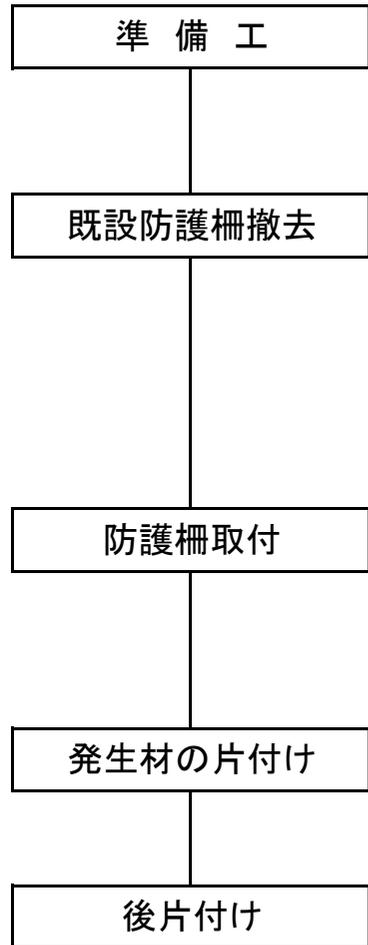


## 防護柵取替工 作業手順②(紀勢道WR式)



内 容	留 意 事 項
作業打ち合わせ(KY活動) 作業内容、人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 埋設物の有無の確認(既設鞘管復旧の為ほぼ無し)	安全ミーティング日報による 指示書の内容確認
破損した既設支柱撤去 破損した支柱は、ケーブルをまとめてクレーンを使用して、少し上にあげた隙間から外していく(抜いていく) 支柱が抜けない場合は支柱の根元を人力で(バール等)起こし支柱にワイヤーを掛けゆっくり引っ張りながら引き抜く。 	ケーブルの跳ね返り等を防止するためにロープ、ワイヤー等で固定して作業する  クレーンでの引き抜きは玉掛ワイヤーの破断等があるので十分注意して行う。 また、クレーンで引き抜く場合はクレーンの定期点検、自主点検は必ず行う。 外した支柱は、現場内の邪魔にならない箇所に整理整頓しまとめて置く。
新しい支柱等の取付 新しい支柱は隙間から斜めに入れ建て起こしながらケーブルを差し元の穴へ入れる。 ケーブルが均等に入ったことを確認する。 ケーブルの張度が弱い場合は所定の強度になるまで緊張機を使い張る。 付属物(キャップや反射テープ等)を設置する。	クレーン等の作業半径内は十分注意し、有資格者による作業を行う。 試験機による張度の確認の実施
整理整頓された、発生材をトラックに積み込む。	クレーン等の作業半径内は十分注意し、有資格者による作業を行う。 吊り荷の下へは絶対に入らない。
使用した道具、機材、余った材料を片付け、最後に竹ぼうきで清掃する。  終礼の実施	使用した道具、材料等忘れ物が無いように確認する。  安全ミーティング日報による

## 注意事項

機械作業は、有資格者が操作を行う。  
 取り外しの時は、特に方向、跳ねに注意をし必ず声を掛ける。  
 吊り荷の下へは絶対に入らない。  
 支柱の引き抜く場合は、クレーンで引き抜きながら支柱をハンマーでたたかない  
 移動前に積載物の落下防止対策を実施し、複数人で確認する。  
 車両を後退させる際は誘導員と打合せ実施後移動する。